

林 重雄¹：愛知県渥美半島に南方系果実や種子の漂着

Shigeo HAYASHI¹：Tropical drift seeds and fruits stranded on the beach of Atsumi Peninsula, Aichi Prefecture, Japan

筆者は2000年より愛知県渥美半島太平洋岸の各地において、継続的な漂着物調査を行っている。特に春から秋にかけて海から陸に向かって吹く南風が優勢な時期には、月に2回程度の調査を継続している。渥美半島の太平洋側には砂浜海岸が連続し、片浜十三里と呼ばれている（田原市 2008）。海岸は太平洋に面し、初夏から初秋にかけては漂着物が寄り集まりやすい場所である（林 重雄ブログ）。

2015年の台風11号通過後に、愛知県豊橋市から田原市にかけての9地点の海岸で、合計17種類の南方起源の果実や種子を確認したのでここに報告する。

漂着記録 2015年7月19日と25日の二日にわたり、愛知県豊橋市小松原、西七根、伊古部、田原市六連、百々、谷ノ口、赤羽根ロングビーチ、堀切、伊良湖岬恋路ヶ浜の9地点の海岸（図1）で漂着物の調査を行った。その際、当日の高潮線よりも高い位置にある台風通過後の高潮線を中心に多数の南方起源の漂着物を確認した。特に目立ったのはペットボトル、ライター、三綾の葉塚などの台湾の製品と、ベトナム語表記のペットボトルと刺し網用のカラフルな小型ウキであった。その他に注目される漂着物では、大量のカツオノエボシ *Physalia physalis* があり、それに随伴してカツオノカンムリ *Verella verella*、オキナガレガニ *Planes cyaneus* の漂着も確認した（林 重雄ブログ）。

漂着果実や種子では、モモタマナ *Terminalia catappa* 45個、アダン *Pandanus odoratissimus* 13個、ミフクラギ *Cerbera lactaria* 9個、シナアブラギリ *Vernicia fordii* 9個、ココヤシ *Cocos nucifera* 7個、ビンロウジュ *Areca catechu* 7個、サキシマスオウ *Heritiera littoralis* 5個、ソテツ *Cycas revoluta* 4個、テリハボク *Calophyllum inophyllum* 4個、ゴバンノアシ *Barringtonia asiatica* 3個、ハウガンヒルギ *Xylocarpus granatum* 2個、サガリバナ *Barringtonia racemosa* 2個、ナガミハマナタマメ *Canavalia rosea* 2個、ハマナタマメ *Canavalia lineata* 1個、タシロマメ *Intsia bijuga* 1個、クイ *Aleurites moluccanus* 1個、以上合計16種115個の南方系果実や種子の漂着を確認した（図2）。ほとんどの漂着した果実や種子にはエボシガイ *Lepas anatifera* やカルエボシ *Lepas anserifera* の付着が認められた。

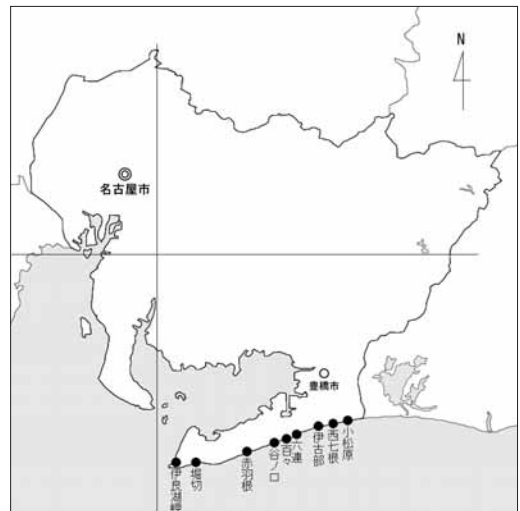


図1 渥美半島における調査地点の位置。

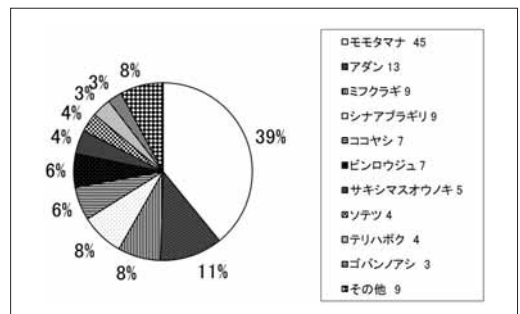


図2 漂着した南方系果実や種子の優占率
和名の右は漂着個数

考察 7月19日の伊良湖岬の天気は曇り、平均気温26.7℃、南よりの平均風速3.2m、満潮は午前7時15分、潮位は193.3cmで、7月25日の伊良湖岬の天気は晴、平均気温は27.8℃、南南西よりの平均風速2.7m、満潮は午前0時13分、潮位は163.3cmであった（気象庁ホームページ）。台風11号（ナンカー）が日本を通過した16～17日にかけては、南東よりの平均風速が両日とも7mあり、17日は大潮とも重なり満潮時の潮位が199.2cmにもなり（気象庁ホームページ）、渥美半島表浜で散見された南方起源の漂着物は、他の漂着物と一緒に風の影響を受け断続的に打ち上げられたものであろう。

また7月の海流図を参照すると、黒潮は潮岬で本州に最接近した後に大きく蛇行せずに東に向かっている。そのため反流も愛知県沿岸に接近しやすくなっており（海洋情報部ホームページ）、黒潮の流路の特異性と、6月後半から7月初旬に発生した台風9・10・11号によるうねりが長期間続いたことが南方起源の漂流物の漂着の一助になったと考えられる。

2012年には南方系果実や種子の大量漂着があった（林 2012）。この時のマメ科の優占率は15.5%であった

(林 重雄ブログ)。それに比べて今回漂着を確認した南方系果実や種子には、マメ科が極めて少なく、ハマナタマメ 1, ナガミハマナタマメ 2, タシロマメ 1, の合計 4 個だけで優占率は3.5%であった。その代わりに、モモタマナ, アダン, ココヤシ, サキシマスオウ, ホウガンヒルギなど海岸林やマングローブ林周辺に生育する植物(石井 1999; 中西 1999)が目立った。このことは、2015年2月から東南アジアで続いている干ばつにより(気象庁ホームページ・世界の天候データツール), 河川の流量が減少し、内陸部のモダマ類やジオクレア類を海に運ぶ機能があまり働かず、海岸に近い場所に生える植物の果実や種子が多く漂着したものと考えられる。

謝辞：本稿をまとめるにあたり愛知県在住の学会員・牧野伸一氏と永田孝氏には、豊橋市と田原市での台風通過後の漂着状況を教えて頂いた。北海道教育大学札幌校の鈴木明彦教授には、粗稿を見ていただいた。亜熱帯植物研究所の中西弘樹氏には、植物の学名についてご教示いただいた。ここに記してお礼申し上げる。

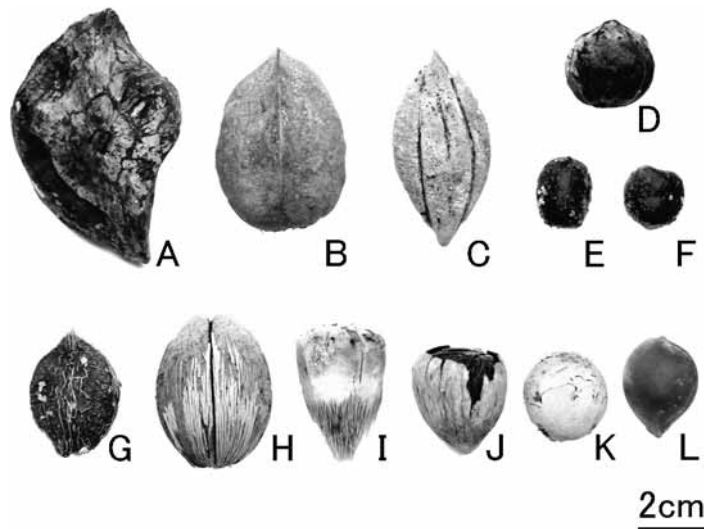


図3 漂着した南方系果実や種子の一部

A ホウガンヒルギ *Xylocarpus granatum*, B サキシマスオウ *Heritiera littoralis*, C モモタマナ *Terminalia catappa*, D ククイ *Aleurites moluccanus*, E・F シナアブラギリ *Vernicia fordii*, G サガリバナ *Barringtonia racemosa*, H ミフクラギ *Cerbera lactaria*, I アダン *Pandanus odoratissimus*, J ピンロウジュ *Areca catechu*, K テリハボク *Calophyllum inophyllum*, L ソテツ *Cycas revoluta*

引用文献

- 林 重雄 2012. 海豆ミーティング2012@表浜. 漂着物学会会報 (42):5-7.
 林 重雄ブログ. Beachcomber's Logbook (<http://beachcomb.exblog.jp/>)
 石井 忠 1999. 新編漂着物事典. 380pp. 海鳥社, 福岡.
 海上保安本部 海洋情報部ホームページ. (<http://www1.kaiho.mlit.go.jp/KANKYO/KAIYO/qboc/2015cal/ocf/ocf201528.html>)
 気象庁ホームページ. (<http://www.jma.go.jp/jma/menu/report.html>)
 気象庁ホームページ・世界の天候データツール. (<http://www.data.jma.go.jp/gmd/cpd/monitor/climatview/frame.php>)
 中西弘樹 1999. 漂着物学入門. 211pp. 平凡社, 東京.
 田原市 2008. たはらの海辺の博物誌. 95pp. 田原市, 愛知.

(Received Aug. 3, 2015; accepted Sept. 3, 2015)

¹ 〒486-0844 愛知県春日井市鳥居松町3-155

¹ 3-155 Toriimatsu-cho, Kasugai City, Aichi 486-0844 Japan